



九条の碑を建立した
思いを語る西山氏

憲法改悪を許さない全国署名スタート

小矢部市でも 一軒一軒訪問を再開

「憲法改悪を許さない全国署名」がスタートし、憲法をまもる小矢部の会、小矢部平和委員会は一軒一軒訪問し署名運動を始めました。

請願項目は① 自民党が提唱する憲法九条に自衛隊を書き込むことなどの改憲4項目（緊急事態条項を含む）に反対します、② 憲法を活かし、平和と民主主義、人権、環境、くらし・医療・公衆衛生などの向上を実現する政治を求めます。

参院選、市議選で憲法を活かす政治へ

今年参院選、小矢部市議選があります。市民と野党の共同の前進、そのために誠実に力をつくす日本共産党を大きくしましょう。憲法改悪を許さない審判を下し、憲法9条を活かした平和外交を担う国づくり、憲法をくらしに活かす政治を前に進めましょう。

いま、改憲へ危険な動き

総選挙で憲法「改正」を主張する勢力が3分の2を占め、自公政権は「緊急事態条項」を入りに改憲議論をし、「日本維新の会」もこれを先導する役を買っています。内閣が緊急事態を宣言すれば国会の立法権を奪い、法律と同じ効力を有する政令を作ることができ、戦後の日本国憲法に緊急事態条項を設けなかったのは、九条が戦争放棄を定めたことに加え、戦前の大日本帝国憲法に組み込まれた緊急事態条項が、天皇制政府の独裁的な権力行使として乱発され、国民を破滅的な戦争へ駆り立てたことへの反省からです。

加賀市「九条の碑」を訪ねる

憲法をまもる小矢部の会

このような危険な動きがある中で「憲法をまもる小矢部の会」は11月14日、石川県加賀市直下(そり)町で、憲法九条の碑を建立された西山誠一氏を訪ねました。日中戦争で父を亡くした90歳の西山氏は「憲法前文や第九条はアジア太平洋地域のすべての戦争犠牲者の『遺言』」と熱く語りました。参加者一同はその思いをしっかりと受けとめました。

明るい小矢部

No.212
2022年1・2月号
年4回6500部発行

発行
日本共産党
小矢部市委員会
小矢部市七社 245
砂田喜昭
TEL 67-4322
FAX 67-4842

日本共産党発行
しんぶん赤旗
日刊 3497円
日曜版 930円

【民生部長】 全国的な問題であり、まずは国・県の制度創設を優先し要望するとともに、独自に実施に



砂田市議の一般質問

難聴者への補聴器補助を

【砂田市議】 全日本年金者組合小矢部支部(八尾三紀夫支部長)は12月2日、桜井市長に「加齢性難聴者の補聴器購入に対する小矢部市独自の補助制度創設」を求め、電気代を町内会には負担させないというだけの話だ。市議会との話し合いの場が出された高校生の要望に比べると、この場で明言して頂きたい。そうし

生理用品の無償配置

【砂田市議】 新日本婦人の会小矢部支部(上田由美子支部長)は11月26日、桜井市長と野澤教育長に、小中学校や公共施設の女子トイレや多機能トイレに、トイレットペーパーと同じように無償で使える生理用品を配置することなどを要請した。ぜひ新年度予算に具体化して頂きたい。



「通学路が暗い」

市議会民生文教常任委員会が石動高校生と話し合いの場を持ち、「石動高校の通学路が暗い」などの要望が12月議会会で取り上げられました。市の答弁が「街灯の電気料負担は地元自治会なので、地元と相談してもらいたい」。砂田市議が関連質問しました。

高校生の声が政治を動かす



【砂田市議】 通学路の街灯電気が、市が負担するルールをつくったことがある。高校生の「通学路が暗い」との声に代えて、電気代を町内会には負担させないというだけの話だ。市議会との話し合いの場が出された高校生の要望に比べると、この場で明言して頂きたい。そうし

【桜井市長】 議員、申される

【砂田市議】 議員、申される

【桜井市長】 本市としては常備用品として小中学校をはじめとする公共施設のトイレに配備の必要性を認識しており、事業の実施に向けて検討に入っていきます。

小矢部市では今年夏に市議選、秋に市長選がある。地方公共団体の仕事は地方自治法で「住民の福祉の増進を図ること」とある。いずれも主権者である市民が直接選挙で選ぶ「二元代表制」だ。議会が日常的に市長が進める行政をチェックし、市民の声を反映するために働く。女性や現役世代、若者や高齢者の多様な意見を市政に反映するには、多人数による合議制の機関に議会の役割が重要だ▼それになぜ「議員を減らせ」との声が市民のなかから聞こえるのか。議会の果たしてきた役割が、市民に十分に伝わっていないからではないか。これが市議会改革協議会の反省点でもある▼小矢部市が街灯をLED化したことで、町内会負担の電気料金が半額になったことは、存じだろうか。繰り返しの議会質問が市を動かした▼子撫川ダムの固定資産税を20数年も取り損ねていたことを発見、是正し毎年1千万円前後の自主財源を生みだしているのも、市民と議会の連携プレーである▼下水道計画を見直し、散居村で浄化槽方式と組み合わせることとで約百億円を節約▼能越自動車道の高岡方面無料化は、議員総出でピアゴ前の署名運動もやって実現できた▼石動駅でのパークアンドライド、土日祝日5時間無料駐車、図書館利用3時間無料など他市に比べて格段に先進的な内容もある▼児童保育の充実、子ども医療費の窓口無料化なども、小矢部市が先頭を走っている▼主権者として市民の政治参加を促し、多様な意見を持つ人が市議選に出やすくするために議員定数は減らすべきではない。だから今度も定数16名で選挙を行おうとなった。